

経営協

2

2009 Vol.305



3度目の報酬改定を目前に、これからの介護保険事業経営を考える

～21年度4月介護報酬改定を読み解く～



論点

民間社会福祉関係者の再生

社会福祉法人 嬉泉 常務理事 石井 哲夫

2

経営協
の
動向平成21年度事業計画策定に向けた
検討が始動

4

論 点

民間社会福祉関係者の再生

社会福祉法人 嬉泉 常務理事 石井 哲夫

6

特 集

3度目の報酬改定を目前に、これからの介護保険事業経営を
考える～21年度4月介護報酬改定を読み解く～

7

今般の改定がもたらすもの一制度導入以降実施された2回の介護報酬改定を踏まえて一

日本社会事業大学専門職大学院 准教授 藤井 賢一郎

10

介護保険のゆくえと施設経営

社会福祉法人 慈愛会 常務理事 平田 直之
全国社会福祉施設経営者協議会 介護保険事業経営委員会 委員

12

小規模多機能型居宅介護のこれから

社会福祉法人 恵仁福祉会 常務理事 宮島 渡
全国社会福祉施設経営者協議会 介護保険事業経営委員会 委員

14

全国経営協 介護保険事業経営に関する要望事項

19

情 報

[高齢者関連]

- 1 平成21年4月介護報酬改定の全容が明らかに
社会保障審議会介護給付費分科会(第63回)で諮問・答申

[障害者福祉関連]

- 2 社会保障審議会障害者部会(第49回)開催
～障害者自立支援法施行後3年の見直しに向けた議論が終結
- 3 障害保健福祉関係主管課長会議 開催
～障害福祉サービス費等の報酬算定構造(案)が示される

[保育・子育て支援関連]

- 4 社会保障審議会 少子化対策特別部会(第21回)開催
～第1次報告は、20年早期に保育事業者検討会を開催し取りまとめる～

31

グラビア

福祉の原点を探る～新たな福祉サービスの創造へ～ 施設訪問 Vol.85

「もうひとつの家族」として子どもたちを支える—子どもの生活と命を守る使命を維持—

[山口県] 社会福祉法人 防府海北園

35

【連載】

地域生活を支える
社会福祉法人⑦地域のために、利用者のために、
そして職員のために！

社会福祉法人 長寿会 理事長 飯尾 弘一

41

社会福祉法人 誌上講座 —「コンプライアンスと法人経営」(第1回/全3回)

「なぜコンプライアンスが求められるのか」

株式会社アスタリスク 危機管理室室長 脇 貴志

44

事務局短信

第3回「障害者施設経営セミナー」

～「障害者自立支援法」見直し後の新たな障害者施設経営を探る～
ご案内

地域のために、利用者のために、 そして職員のために！

社会福祉法人 長寿会
理事長 飯尾 弘一



施設外観

（法人の概要）

法人名：社会福祉法人長寿会

理事長：飯尾 弘一

所在地：大阪府泉南市信達六尾547番地

設立年月日：平成5年8月23日

ホームページ (<http://www.chojukai.or.jp>)

ブログ『長寿会の言いたい放題』

(<http://blog.chojukai.net/>)

事業内容：

【泉南市】

ケアハウス長寿苑	定員 50名
特別養護老人ホーム六尾の郷	定員 60名
ショートステイ六尾の郷	定員 10名
デイサービスセンター六尾の郷	定員 25名
デイサービスセンターつばさ	定員 18名
グループホーム六尾の郷	2ユニット定員各9名

ホームヘルプステーション六尾の郷

ケアプランセンター六尾の郷
地域包括支援センター六尾の郷 (泉南市委託事業)
六尾診療所
小規模多機能型居宅介護事業 (平成21年6月開所予定)

【八尾市】

グループホームいずみ	3ユニット定員各9名
------------	------------

▶ はじめに

平成5年8月に、大阪府泉南市の山間部である六尾地区に法人を設立しました。当初は「とりあえず運営」することで精一杯でした。地元ではない泉南市にてケアハウスを開設したため、入居者の募集一つを取り上げても当時はケアハウス自体の認知度が低く、その上住民からは「地元の人間ではない」という理由で受け入れてもらえず、事業として赤字が数年続きました。また介護保険スタート後も、在宅・施設サービス機能を活用しきれず、各種制度への対応に日々追われ、社会福祉法人としての役割・使命である地域貢献や地域住民との信頼関係の構築は希薄でした。

法人設立後10年という歳月が流れ、組織づくり、各種介護サービスが機能できるようになったとき、法人にとっての『弱み』は何かを考えたとき、地域とのかかわりが極めて少ないことに気づかされたのです。その事実を証明するかのように、六尾地区全70世帯中、当法人のサービスを利用している人は一人もいませんでした。そんな中、平成15年9月から在宅介護支援センター所属の職員が、六尾地区一軒一軒を訪問することにしました。

▶ なぜ地域に受け入れられていないのか…

「静かな農村部に大きな箱物を立てて日当たりが悪くなった」「農作物に影響が出た」「施設利用者と職員が村を散歩しているが、マナーが悪い」「職員の車の運転が荒くて危ない」、と聞こえてくる生の声は散々たるものでした。しかしそれに屈すること

なく、晴れた日には毎日のように六尾地区の農村を歩き回り、畑や田んぼで農作業をしている住民に声をかけ、少しずつであるが「馴染みの顔」となり、時間をかけながら誤解も解け、やっと話を聞いて頂ける関係へと進展していきました。70世帯を実態把握するなか、介護保険制度を全く知らない方、日中独居や健康に対する不安な方、「娯楽」を知らないため外出をしたくてもできない方々が多くいることを知りました。

そこで法人として何かお役に立てることはないかと、六尾地区関係者と何度も説明会を開き、法人独自の認知症を中心とした介護予防教室『リフレッシュ教室』を、地域の老人集会所で月1回開催することの承諾を頂きました。痴呆(当時)症・介護予防教室ではストレート過ぎて敬遠されるため、「頭も体もリフレッシュする」という苦肉の策のネーミングです。

またそれに伴い、平成16年4月より外出を希望する住民の願いに応え、「地域交流会」と称して年に1、2回の日帰り旅行を中心に企画しました。地域の虚弱な高齢者と法人利用者およびスタッフが大型観光バスを貸しきり、神戸、滋賀、京都、奈良と高齢者でも負担が少ない観光地等に出かけています。住民にとってこのような地域交流会は、家族に気兼ねすることなく安心して外出することができるとのことで、毎回好評で今年で19回目を迎えています。



リフレッシュ教室

▶「リフレッシュ教室」が泉南市に評価され、地域支援事業として予算がつく

六尾地区でスタートした「リフレッシュ教室」を他の地域にも広めていきたい旨を、担当地区ケア会議（地区代表12名が参加する住民主体会議を法人内で月1回開催）で提案し、要請しました。その目的は、認知症の理解を深めること、学習療法を中心とした脳リハビリ、脳活性化を促すこと、また閉じこもりの防止等、身近な地域で様々な人に目を配り、住民と協働して地域ネットワークを構築していくことにあります。

まず最初に砂川地区（約2,200世帯）の相談協力員、民生委員、地区福祉委員、区長、班長、老人クラブ会、婦人会等に相談し、協力を願い再々説明会を実施し、「リフレッシュ教室」を市内4カ所の集会所にて開催する承諾を頂きました。教室の実施回数を重ねるたびに参加者からは、「楽しかった」「頭の体操せなあかんわー」「できたら毎週来てほしい」と評判は上々で、担当職員1名では教室のメニ



地域交流会（六尾地区）

ューの開発と、月5回の教室が限界でした。

職員のその直向きな姿勢が評価されたのか、泉南市にその実績が評価され平成16年9月から、地域支援事業（一般高齢者施策）として予算がつきました。現在では19カ所、年間約160回の教室を開催しており、地域包括支援センターの基幹事業の一つとして活発に活動しており、ボランティアの育成と地域ニーズの掘り起こしを行っています。

▶ 地域との共存共栄 ～砂川地区見守りネットワークの構築～

平成19年4月、泉南市において地域福祉計画（概要：地域住民が見守りの可能な範囲で行政、関係機関、多種多様な団体と連携・協働そして、支えあい安心して生活できる地域社会を確立するためにネットワークを構築することの必要性）が策定されました。この取り組みを砂川地区で推進していきたい旨を、区長、民生委員、地区福祉委員、老人クラブ、婦人会等の各種会合に時間をいただき度重なる説明会を実施し、ついに平成19年6月13日「第1

回砂川地区高齢者見守りネットワーク推進会議」を立ち上げることができました。砂川地区全世帯にボランティア募集と支援希望者を募る活動内容を回覧配布し、ボランティア研修も行いました。住民主体の見守りと支えあいを目的とし、地域の要援護者に対してボランティアを派遣し、簡単な家事援助や見守りなどの個別援助活動を行い軽度要介護者の介護保険の軽減にもつながっており、現在では地域医療に熱心な開業医も構成メンバーとして参加し、情報提供や助言を頂いております。このネットワークは住民主体であり、住民と専門職との役割分担を明確にし、地域からは専門職として必要とされた時は、24時間365日迅速に支援する「強い絆」の信頼関係が構築されており、安心して暮せる街づくりに向け支援しています。

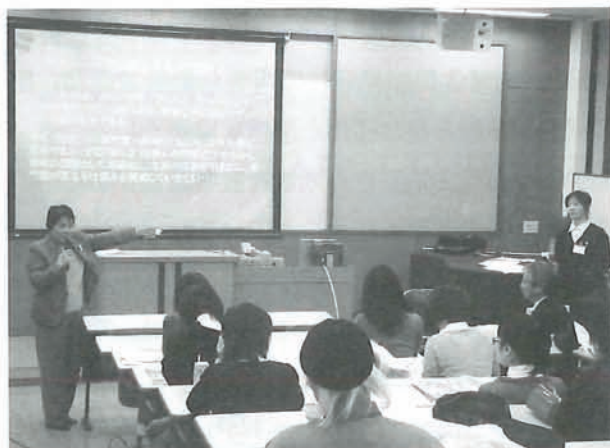
平成20年5月に「砂川地区見守りネットワーク」が甲南女子大学看護リハビリテーション学部長 津村智恵子教授の目にとまり、厚生労働科学研究事業

として「高齢者の孤立死防止見守り組織研究」への協力依頼を受けることになりました。法人としても地域とのつながりを大切に、地域包括支援センターを中心に大学等とも提携し現場に役立つ研究的な取り組み姿勢も必要と考えています。平成20年11月には、大阪市立大学にて事例報告もさせて頂きました。

▶ その他の社会貢献

配食事業（市町村等の事業補助金なし）

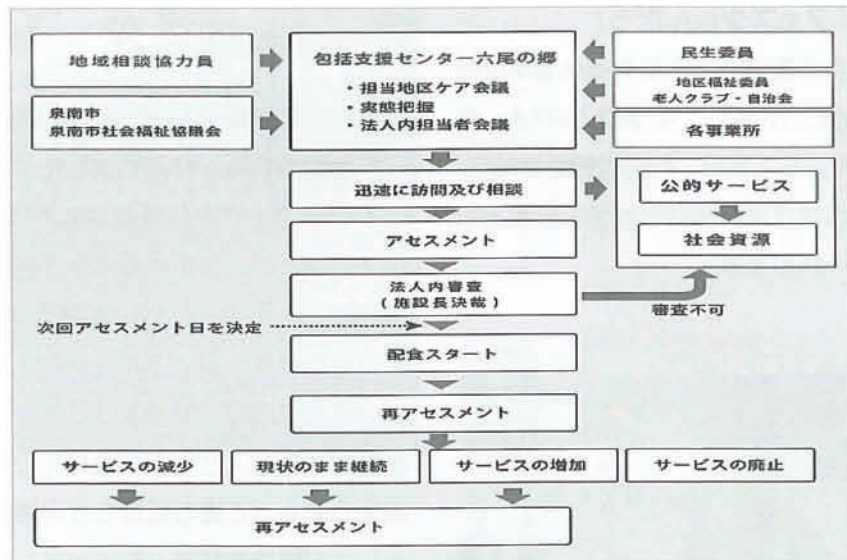
本当に必要な人に、必要なときに、そして必要な分だけをモットーにしています。申込の連絡が入り次第、法人内でサービスの必要性の検討とあわせて審査会議を行います。なお緊急時に関しては、当日からのスタートを可能としています。昼食のみ（300円）になりますが365日利用可能です。



大阪市立大学での講義



砂川地区見守りネットワーク会議



配食アセスメント表

六尾カフェ

地域の拠点として開かれた施設をめざし、地域住民がボランティアとして当施設のラウンジを利用し、週に一度喫茶店をオープンしています。

地域のボランティア7名が交代で、特養、ケアハウス、グループホーム入居者やその家族、デイサービス利用者、一般の方等に豊富な季節の飲み物とお

茶菓子を提供しています。

平成20年3月からは、泉南市砂川地区の子育て支援グループ「すなっきーず」等に協力していただき、0歳～3歳児までのお子様とそのお母様にラウンジを開放し、0歳児～106歳！（当老人ホームの最高齢者）という世代間交流を実施しています。



六尾カフェの様子



六尾カフェ内での世代間交流

泉南市信達地区『フェスタしんだち』

このイベントは生活圏域である泉南市信達中学校区の保育所、幼稚園、小学校、中学校、PTA、青少年指導員、民生児童福祉委員、泉南市教育委員会、各自治体等、地域の様々な団体が参加・企画運営しているフェスティバルです。



信達中学校「フェスタしんだち」での『六尾の郷学校』

法人全体として「フェスタしんだち」に参加することにより、地域との交流を持ち、小中学生を中心とした幅広い年齢層の地域住民に、『福祉の身近な相談機関』として認知されるよう、また高齢者の理解や福祉に対する関心を持ってもらうよう啓発しています。

▶ 今後の課題として

平成5年に設立して、15年間という長いようでとても短い期間が経過しました。私どもの法人は人間でいうとまだ高校生になったばかりの年齢です。法人の現状は、長所も短所も「若さ」なのです。今後の課題として、まずは職員教育と考えています。職員には所属している事業所内での役割がありますが、それをただこなすだけでなく、事業所の垣根を越えた法人としての職員の役割を理解し、常に向上心をもって進む気持ちが必要です。向上心、チャレンジ精神を持ち、ちょっとした変化にも興味を示し、学ぼうとする気持ちが芽生えてきます。そのような職員の変化を私を含み、施設長等の役職者が見逃すことなく、教育していくことが大切だと思います。

また、「地域の中にある社会福祉法人」ということを再認識し、困っている方がいれば24時間365日サポートしていき、そして地域住民が緊急SOSを発信されたときには、相談業務職員は勿論のこと、現場介護職員であろうが、事務職員であろうが誰もがそのSOSに耳を傾け、迅速に対応できような組織づくりの構築が必須と考えます。

課題は多岐にわたりますが、福祉従事者という狭い視野としてだけでなく、一社会人として、一つひとつの社会的な責任を自覚し、『地域のために、利用者のために、そして職員のために』志を同じくする者が相集い力を合わせ、邁進していく法人をめざさなければなりません。